

7,881kW) に導入する目標としています。屋根面積や形状、日照条件などにより、太陽光利用に向いていない住宅もあることから、2030年における目標値を30%としました。

福生市の場合、比較的集合住宅の比率が高いため、戸建住宅だけでは太陽光発電の導入が頭打ちになります。そこで、福生市内には公営の団地も多いことから、集合住宅にも15kW程度の太陽光発電システムの導入を進めることとします。目標は、2010年に全棟の2% (42棟、630kW)、2020年に10% (215棟、3,225kW)、2030年に30% (640棟、9,600kW) です。

なお、省エネルギーが進むことと合わせて、太陽光発電の比率が高くなりすぎること、電力供給の安定性が低下するおそれもありますが、これについては、分散型発電によるバックアップを行うことで供給安定性を高める技術を導入することを想定しています。

B. 太陽熱利用システムの導入

太陽熱利用は効率も良く、コストパフォーマンスも良いのですが、近年その設置数は減る傾向にあり、耐用年数を過ぎて使用されなくなったシステムを考えると、設備のストックも、太陽熱エネルギー利用量も減ってきていると考えられています。

福生市において、どの程度の家庭(戸建住宅)で太陽熱利用システムが導入されているか正確には不明ですが、今回行った家庭アンケートでは、約7%の戸建住宅で太陽熱が利用されていることがわかりました。これを前提に今後戸建住宅に、集熱面積3㎡程度の太陽熱利用システムを導入し、給湯に利用することとしました。目標は2010年までに全戸の12%(現在の普及率+5%、1198戸)、2020年に20%(同じく+13%、1925戸)、2030年に30%(同じく+23%、2627戸)としました。

また、太陽光発電システムと同様に、集合住宅でも太陽熱利用を導入することを想定しました。こちらの目標は、2010年に全棟の1%(21棟)、2020年に10%(213棟)、2030年に20%(399棟)と、システム面や工事面での課題を考慮して低めの目標としました。

C. 家庭用木質ペレットストーブの導入

再生可能でCO₂を排出しない木質バイオマスエネルギーが注目を集めています。残念ながら福生市内にはバイオマスエネルギーを十分に使えるほどの供給量はないのですが、青梅・奥多摩地区には豊富な森林資源があり、青梅市で東京産の木くずを加工した木質ペレットの生産も行われています。木質ペレットを燃料にしたストーブやボイラーもあり、家庭でも使われ始めました。

ここでは木質ペレットを燃料としたストーブ(ペレットストーブ)により、戸建住宅が一冬に消費する暖房用灯油を置き換えるものとしてしました。

導入目標は2010年に戸建住宅の2%(200戸)、2020年に10%(963戸)、2030年に20%(1751戸)としました。